

令和元年度 第1回山高神代ザクラ樹勢回復検討委員会 議事録

- 1 日 時：令和元年8月27日（火） 午前10時～午後0時15分
- 2 場 所：北杜市甲斐駒センターせせらぎ第1会議室～實相寺内 山高神代ザクラ現地
- 3 出席者（敬称略）
 - （委員）松永直樹・鈴木健二・内藤満雄・亀井清孝・篠原旭・溝口克己・河辺祐嗣
長谷川秀三・小野仲夫・小林稔蔵
 - （オブザーバー）田中厚志
 - （参与）今泉俊彦
 - （事務局）堀内正基教育長・中山晃彦教育部長・佐野学術課長・小林学術課資料館担当
 - （コーディネーター）和田博幸
- 4 「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき公開とする。
傍聴人の人数 0人
- 5 会議次第
 - （1）開会
 - （2）委員長、副委員長選出
 - （3）委員長あいさつ
 - （4）議事
 - （5）その他
 - （6）閉会
- 6 委員構成について
委員の互選により、委員長は篠原旭委員・副委員長は溝口克己委員を選出
- 7 議事
 - （1）平成30年度までの保存管理経過について
 - （2）今後の保存管理について
 - （3）その他
- 8 その他
- 9 閉会

「7 議事」の概要

(1) 平成30年度までの保存管理経過について

○議長（篠原旭委員長）

・審議に入る。山高神代ザクラの平成30年度までの保存管理経過について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

・山高神代ザクラ樹勢回復工事後の保護措置について報告

○山高神代ザクラ保存会長

・日常の灌水及び除草管理の状況報告

委員：今年、桜の花のつき方はどうであったか。

事務局：見た感じでは、特に異常はなかったかと思われる。

委員：昨年度と変わらない咲きぶりであった。ただ、桜が満開になった4月10日に積雪があり、枝を心配したが、折れるような雪害はなかった。

委員：いままで見てきた中で、今年度は一番樹勢が良かったと感じる。花の咲きぶりや枝の伸びも含めて、良かったと思う。プラス成長と思う。

コーディネーター：ここ10年位、樹勢が良かったり悪かったりを繰り返していたが、今年度は良かったと思う。枝も安定してきている。

委員：古い枝が枯れる一方で、新しく伸長した枝が増加し、木の世代交代が始まったと感じる。

(2) 今後の保存管理について

○議長

・続いて、山高神代ザクラの今後の保存管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

・全体的に良好と見られることから、従来までの監視、除草管理等を継続して実施する。

・神代ザクラの主幹の腐朽・崩落が進行している。

今回、検討委員会にて保全の要不要、方向性を定めたい。

委員：主幹保全のための木固め剤は、表面を硬化させることはできるが、芯の方まで深く浸透しない。

事務局：主幹の状況について、主幹で健全に残存している部分は、主幹北西部と北東部の2ヶ所であり、ほとんどが空洞部と枯死部になっている。

コーディネーター：神代ザクラのエドヒガンザクラは、不定根が多く発生する。一見朽ちた主幹や見えないところにも不定根があると見込まれる。朽ちた主幹は、腐葉土化し

不定根の培地として機能する。主幹内部まで固めてしまわないほうがよい。

委員：神代ザクラの太い主幹は、価値を表現する重要な要素。一方、中は朽ちても構わない。

委員：木固め剤は、地中部や幹の健全部には施工できない。

委員：そうすると、地表部を固めても重量を支持できない。

コーディネーター：そう考えると木固め剤は、一時的な効果しか期待できない。主幹の太さを表現するなら、石を並べて表現するなどの手法もある。

委員：地上部（幹・枝葉）と地下部（根茎）の重量バランスが悪いから、その点への対策も必要かと思う。

コーディネーター：神代ザクラの樹勢の衰えは、ネコブセンチュウ病の蔓延によるところが大きい。樹勢回復工事後、状況は改善したが、平成23・24年度の根茎調査時には再発を確認している。改めて根茎の状況を確認し、措置を講じる必要がある。

土壤微生物の多様性を向上させることで、ネコブセンチュウ病の拡大を抑制できる。

委員：落ち葉を敷きこむ、腐葉土を施肥するなどが効果的かと思う。

委員：主幹の太さを守りたいので、措置を講じてほしい。

委員：同感である。主幹を維持する手立てを講じてほしい。

委員：地元にながら初めて柵の中に入り、神代ザクラを身近に観察し、感じ入るところがあった。主幹の太さはや木肌は、荘厳さすら感じさせるから、守ってほしい。

委員：神代ザクラは、世界に誇れる地元の宝。主幹をこれ以上、崩すことなく保持してほしい。